

評議員会議事録

日 時：2005年3月29日(火)12:00--13:00

場 所：明星大学日野キャンパス23号館2F会議室1

出席者：井上、海部、小山、柴田、須藤、千田、高橋、牧島、吉井、安東、家、梅村、大橋、小杉、佐藤、観山、山本 以上17名

有効委任状提出者：太田、岡村、高原、舞原、池内、谷口 以上6名

欠席者：福井

他に理事会から、祖父江理事長、黒田副理事長、花岡、杉山、北本、関井、百瀬理事、及び東條事務長が参加した。

議事に先立ち、議長及び署名人を選出した。

議 長：大橋隆哉

署名人：柴田一成、山本哲也

報 告

1. 前回議事録の確認(資料1)

花岡理事より前回(2005年1月22日)の評議員会議事録が報告され、承認された。

2. 当年会について

百瀬理事より開催中の年会について報告があった。年会は講演581件(口頭335件、ポスター246件)であり、またジュニアセッションは講演35件である。今回は企画セッション2件、特別セッション2件を含めて開催しており、順調である。なお、27日の公開講演会は参加者151名、同日の記者会見は9社参加であった。

3. 教育問題懇談会報告

祖父江理事長より教育問題懇談会の活動について報告があった。昨年7月の評議員会において、初等・中等理科教育に関して危機感を持ち、改善の為の方策の議論をきっかけに発足した懇談会において、1月9日、2月27日にはそれぞれ高等学校における地学・物理教育、小中学校での天文教育に関するシンポジウムを開催、年会中の3月28日に天文教育フォーラムを教育の専門家を招いて天文教育普及研究会と共に開催というように、議論を行ってきている。今後一般教育についての、また可能なら大学院教育についてのシンポジウムも開催したい。秋の中教審答申へ向けて学会からの提言を6~7月にまとめたいと考えている。特に学習指導要領への提言を行いたい。

なお、これに加えて祖父江理事長より教育問題懇談会と天文教育委員会間の関係について説明があった。教育問題懇談会は、初等中等教育について危惧があるという認識から学会として議論の場を設けるべきではあるが、教育委員会の負担をこれ以上増やすのは難しい、ということから委員会とは別に立ち上げたものである。ただし両者の役割について齟齬が生じており、今期中にこれを解決したいと考えている、ということである。これについて、そもそも教育委員会の役割は初等中等教育・一般教育への窓口となるべきであるところであるが、その役割を果たせずに来たのではないのか、それ以前に学会としての教育問題への取り組みがどうあるべきか、が不明確であったのではないのか、積極的に教育問題にかかわるべきという意見に対して委員会の方が消極的であったのではないのか、という議論があった。一方、天文学会には必ずしも初等中等教育の専門家が十分いるわけではないので委員会として積極的にこの問題に取り組むのが行うのが難しい面があり、他の仕事も相俟ってなかなか委員会として態勢が整わない、という議論もあった。現在は懇談会が積極的に教育問題にかかわる役割を果たしつつあるということは認識はされている。評議員会としては、学会は初等中等教育・一般教育に積極的に取り組んでいく方向であるということを確認した。

4. 創立100周年記念WG報告

杉山理事より現在検討している事業のうち以下について報告があった。

記念切手の発行

若松前副理事長を中心に、来年度の郵政公社の委員会で作られる正式決定で認められるよう運動中である。なお、関連分野の記念切手ということでは、国立天文台からも1年早く別に記念切手発行の要請をするとの情報があった。

学会100年史編纂

2月17日に尾崎元理事長、実務担当理事などを中心とした予備的な会合を行い、学会として小委員会を設置することを念頭において編纂委員メンバーを内定した。3月30日年会中に委員会を開催予定である。

天文月報100巻記念

月報編集委員会で議論中である。なお、記念式典については今後の検討となる。

5. PASJ寄贈先リスト(資料2)

花岡理事より現在の寄贈先リストの紹介がされた。経済情勢が変化しており、購読を求めるべきところも多いのではないかと指摘があった。一方、寄贈をつづける所について電子版にログインする権利も含めて寄贈ということにできないか、という意見もあった。今後編集部等で見直しを検討する。

6. その他

(1) 天文オリンピック

杉山理事より、科学オリンピックのひとつとして開催されている天文オリンピックへの参加が検討できないか文部科学省より問い合わせがあり、それを受けて文科省の担当者を交えて予備検討会を開催したこと、天文オリンピック自体の詳細が不明であるので状況を把握するためオブザーバー2名を派遣するよう理事会で決したこと、が報告された。

(2) 男女共同参画学協会への対応について

祖父江理事長より、男女共同参画学協会に関する経緯の報告がされた。最近、男女共同参画学協会が日本学術会議女性会員の選出についての要望書を出すことになり天文学会にも有志として要望書に加わるよう依頼があったが、天文学会として議論をするなど対応をしている間がないため保留とした、ということがあった。日本天文学会は男女共同参画学協会に参加しており、現在祖父江理事長が窓口となっているが、今回の要望書のような動きに対応するのは容易ではないため新たに他の担当者を決めることとなり、理事会で検討中である。男女共同参画については委員会を学会として持ってもよいのではないかと、学会内では若い年代には女性も多いが、現状を十分把握する調査などを行うことも必要ではないか、という意見があり、これも理事会で検討することとなった。

(3) 科研費実績調査

前回の評議員会で議論のあった科研費の実態調査について、家評議員より、学振と国立情報学研で公開に向けて整備中のデジタルデータを入手することができたとの報告があった。ただし1996年以前の分は未完で不備も多いので、1980年代までのデータを独自に追加入力・照合中であり、秋頃までには天文科研費データベースを完成し、分析結果を報告したい、とのことである。

(4) 100周年記念出版事業

祖父江理事長より報告がされた。3月27日に第4回委員会を行い、最終的な章立てがほぼ固まり、全体構成は16巻から17巻に変更することになった。執筆候補者について議論を行い、4月には執筆の打診をする。2007年末か2008年初めに完成とすると最初の締め切りは10月となる。執筆スケジュールは楽なものではないが、順次遅滞なく出版していくことが出版物としても学会の事業としても重要であるとの指摘があった。

(5) 委員会委員の変更

杉山理事より、加藤万里子氏が退会したため氏が委員であった年会実行委員会と天文教育委員会の委員に欠員が生じたことについて報告があった。天文教育委員会については、最近教育関連の会合の頻度が高くなっている一方で田委員長が岐阜県に異動となって頻繁な会議出席が困難になっている事情もあり、東京近辺在住の委員を新たに加えて欠員の補充するというところで、山縣氏に新たに委員としたことが報告された。年会実行委員会についても必要に応じて補充を今後検討する。

議題

1. 日本天文学会100年史編纂委員会内規の制定など(資料3)

杉山理事より、天文学会創立100周年記念事業のひとつとして100年史の編纂を行うこととなっているので、小委員会として100年史編纂委員会を組織しそのための内規を制定したいとの提案があった。あわせて委員の候補の説明もあった。内規は提案どおり制定とした。学会の100年史として編集するものは単に学会の歴史ということではなく日本の天文学の歴史も合わせた一般の興味をひくものもよいのではないかと、むしろ史料としての価値を重視すべき、というような意見も出された。

2. その他

(1) 会費値下げ等会計からの報告

関井理事より、PASJや天文月報の出版費用が減少してきているため会費値下げを検討していると前回報告した件について、現在会費値下げばかりでなく諸事業も含めて理事会で検討をしつつあると報告があった。

2005年4月20日

議長 大橋隆哉

署名人 柴田一成

署名人 山本哲也